

事故・故障等発生報告書

令 0 7 原機 (科) 1 3 8
令 和 8 年 3 月 2 日

茨城県知事 大井川 和彦 殿

住 所 茨城県那珂郡東海村大字白方 2 番地 4
事業所名 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
原子力科学研究所
氏 名 所 長 前田 敏克
(公印省略)

原子力施設周辺の安全確保及び環境保全に関する協定 第 17 条の規定により、原子力施設等における事故・故障等の発生について次のとおり報告します。

発 生 年 月 日	令和8年2月18日（水）
発 生 場 所	原子力科学研究所 配水場（非管理区域）
件 名	原子力科学研究所 配水場における火災発生について（第1報）
状 況 原 因 対 策 環 境 へ の 影 響 等	別紙のとおり

注) 図面及びその他の説明資料を添付すること

原子力科学研究所配水場における火災発生について（第 1 報）

1. 背景

原子力科学研究所配水場（図 1 参照。以下、「配水場」という。）は、昭和 52 年度に建設された施設であり、茨城県及び東海村から受水した工業用水及び上水を原子力科学研究所内に供給している。施設の特徴として、地上 1 階建家で、一般施設（非管理区域）として運用されている。配水場は耐震改修工事を実施している状況であった。

2. 状況

（1）事象の概要

令和 8 年 2 月 18 日（水）13 時 10 分頃、午後の工事を開始した。当時の現場配置は、現場代理人 1 名、溶接者 2 名、監視員 1 名、溶接補助者 1 名、検査者 1 名の計 6 名（全て請負企業関係者）である。当時は 2 箇所溶接作業を行っていた。このうち発災箇所と思われる場所において、溶接者 1 名が配水場の鉄骨補強材を当該建家の柱に取り付けるため、監視員 1 名立会のもと溶接作業を実施していた。溶接作業中は、周囲に火花が飛び散らないよう、建家内部はスパッタシートで可燃物を養生し、外側には散水した合板を設置して、監視員が溶接箇所周辺への延焼の有無を確認していた。13 時 20 分頃、溶接作業が終了し、監視員は周囲の確認を行ったが延焼は認められなかったため、建家内に移動し別作業の準備を行っていたところ 13 時 30 分頃焦げ臭さを感じた。そのため、外部を確認した際、屋外の芝生が延焼していることに気付いた。その後、請負企業関係者 6 名が初期消火（ABC 粉末消火器、水バケツ及び水道ホースによる放水）を開始した（図 2、3、4 参照）。

13 時 31 分頃、請負企業現場代理人から工事担当職員に火災発生の連絡を行い、13 時 34 分に同職員が現地を確認、公設消防へ通報した。その後初期消火により延焼箇所の消火は終了し、到着した公設消防により 13 時 51 分に鎮火が確認された。

本事象は、「核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律」及び「放射性同位元素等の規制に関する法律」に基づく報告事象には該当しない。

（2）放射性物質の漏えい；なし

（3）環境への影響；なし

（4）人の汚染・被ばく；なし

(時系列)

13 時 10 分頃	鉄骨補強材の溶接作業開始
13 時 20 分頃	鉄骨補強材の溶接作業終了
13 時 30 分頃	配水場の西側の芝生が延焼しており、プレハブ倉庫の一部も焦げていることを発見
13 時 34 分	公設消防へ通報
13 時 50 分	公設消防が現場へ到着
13 時 51 分	公設消防による鎮火確認
15 時 18 分	警察による事件性なしの判断

3. 耐震改修工事の概要

本建家は、旧耐震基準で建設された建物であり、現行の耐震基準と同等以上の耐震性能を確保するために行う工事である。溶接作業は、令和7年12月から開始していた。

4. 現在までに講じた措置

現在、本工事は中断し、屋外延焼箇所及び当該溶接箇所については立入禁止措置を講じている（図5）。

原子力科学研究所内で本事象の情報共有を行うとともに、安全意識を醸成し、リスクの感受性を更に高めるため、所属長を招集して決起集会を実施した。また、本工事以外で溶接作業を予定している場合には、安全管理者が作業現場に出向き、十分な防火対策が講じられていることを事前に確認したうえで溶接作業を行うこととした。下記6.の結果を踏まえ、再発防止を図る。

5. 施設への影響

隣接するプレハブ倉庫の一部が延焼した。ただし、原子力科学研究所の他施設への影響はなかった。

6. 火災発生推定原因

室内の溶接作業で生じた火花が壁の隙間から外部に飛び出し、屋外の芝生に引火したことにより、隣接するプレハブ倉庫の一部へも延焼したと推定される。詳細な原因は調査中。

7. 対策

今後原因を究明した後、必要な対策及び水平展開を講じる。

8. 環境への影響等

本事象に伴う人的災害の発生及び周辺環境への影響はなく、モニタリングポストの指示値にも変動はなかった（図 6 AおよびB）。

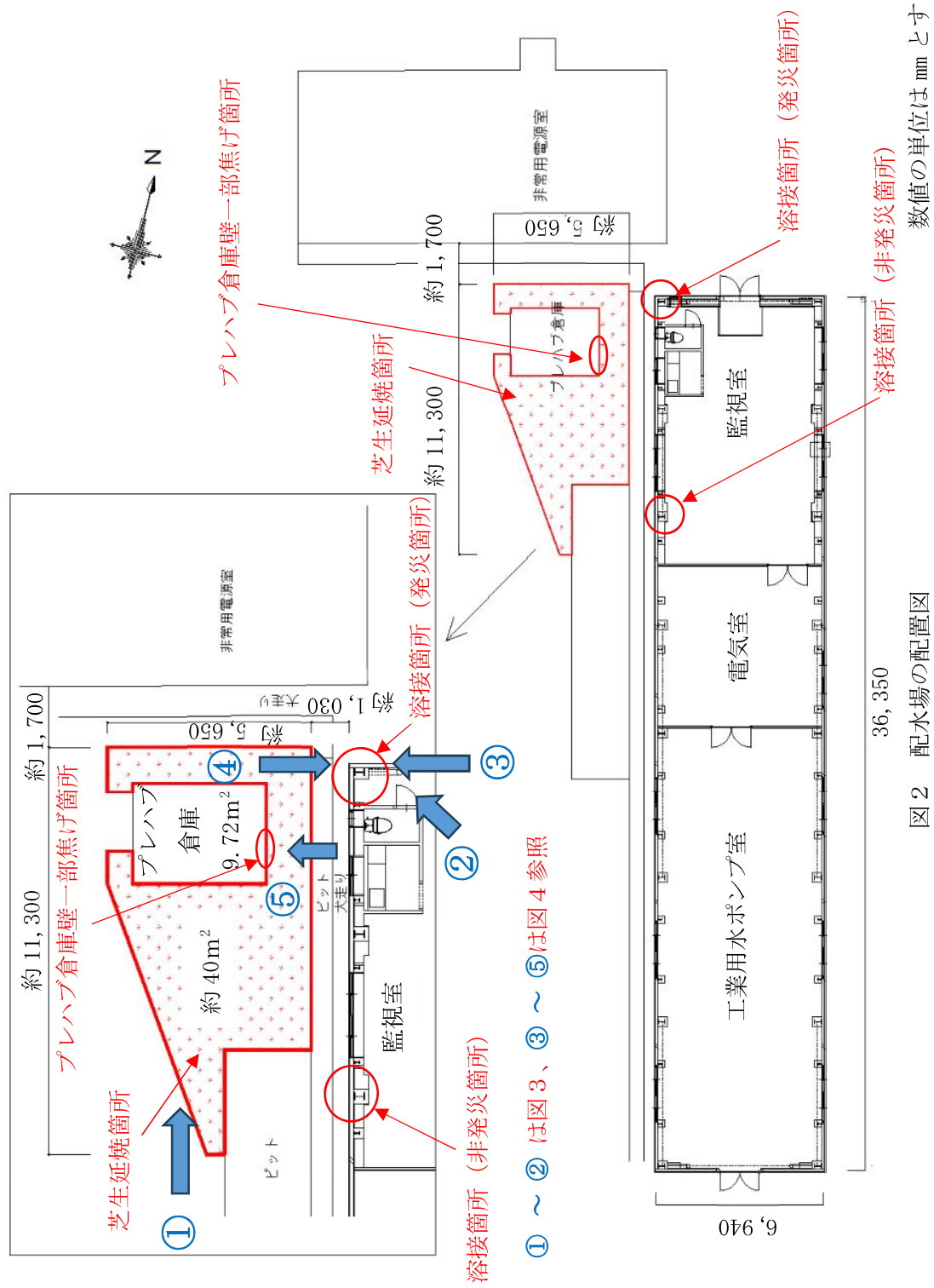
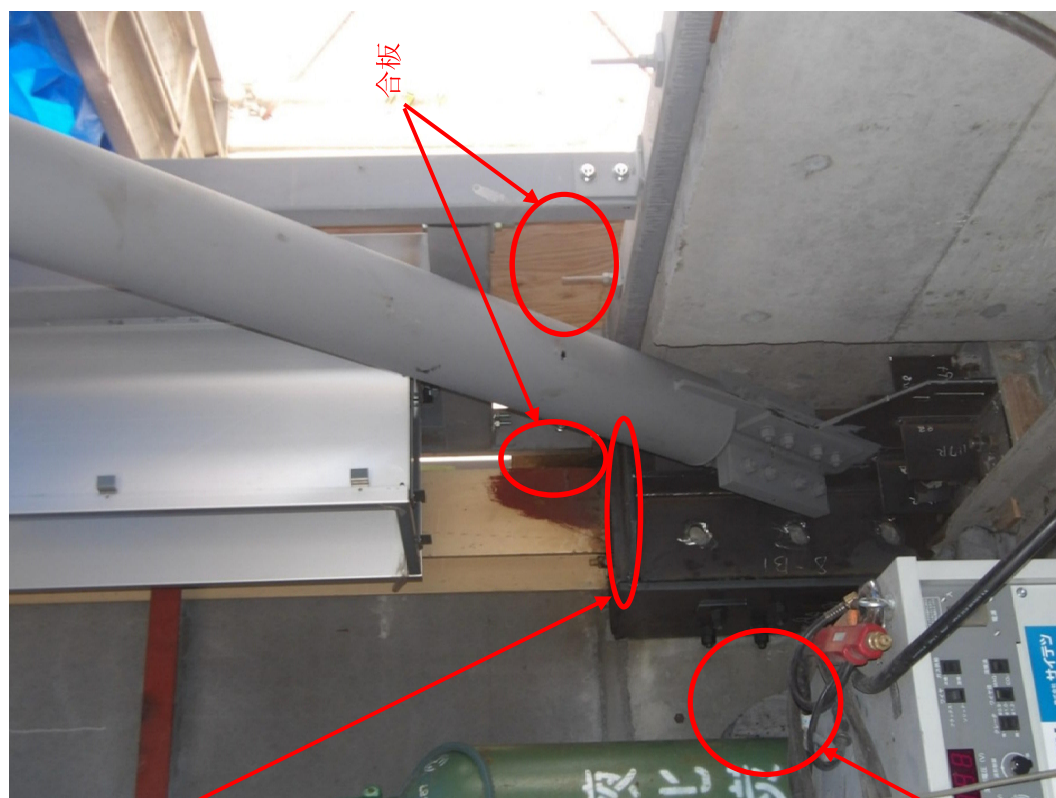


図 2 配水場の配置図



詳細状況②

溶接箇所

プレハブ倉庫壁一部焦げ

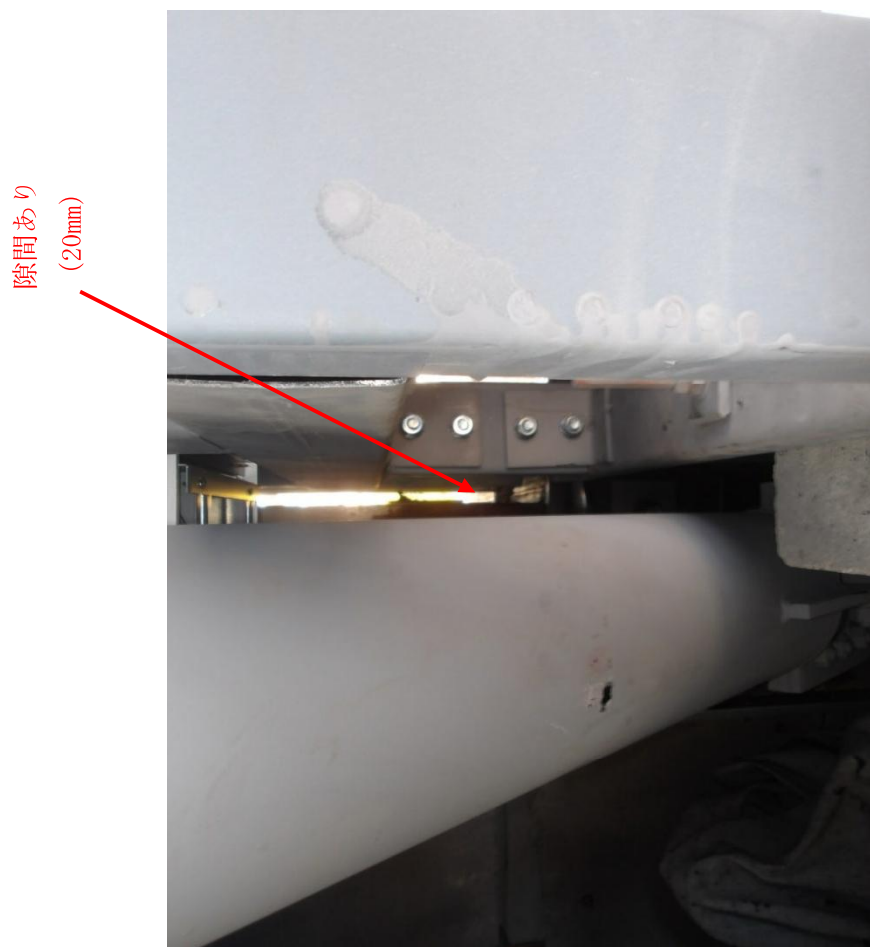
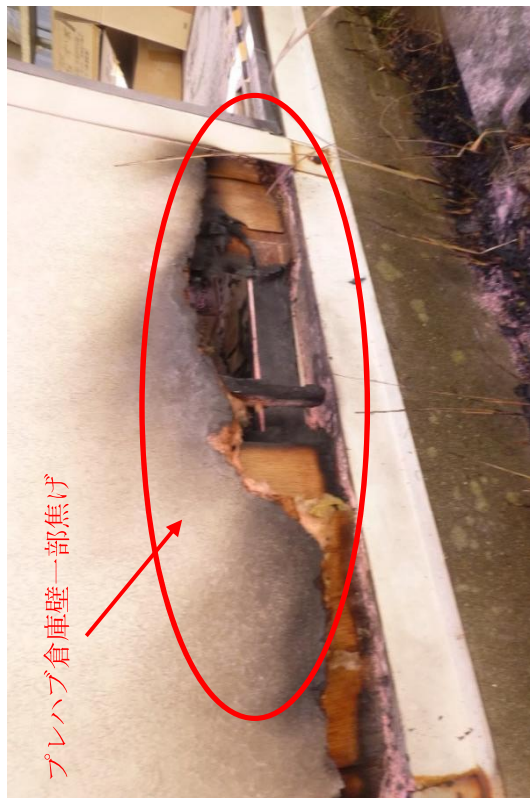
溶接箇所 (建家内部)



全景状況①

スパッタシート

図3 全景及び詳細状況



詳細状況⑤

図4 詳細状況

詳細状況③



図 5 立入禁止措置状況

モニタリングポスト時系列グラフ

作成日時:
2026/02/24 17:29

データ種別:
1分値

測定期間:
2026/02/18 09:30~2026/02/18 15:30

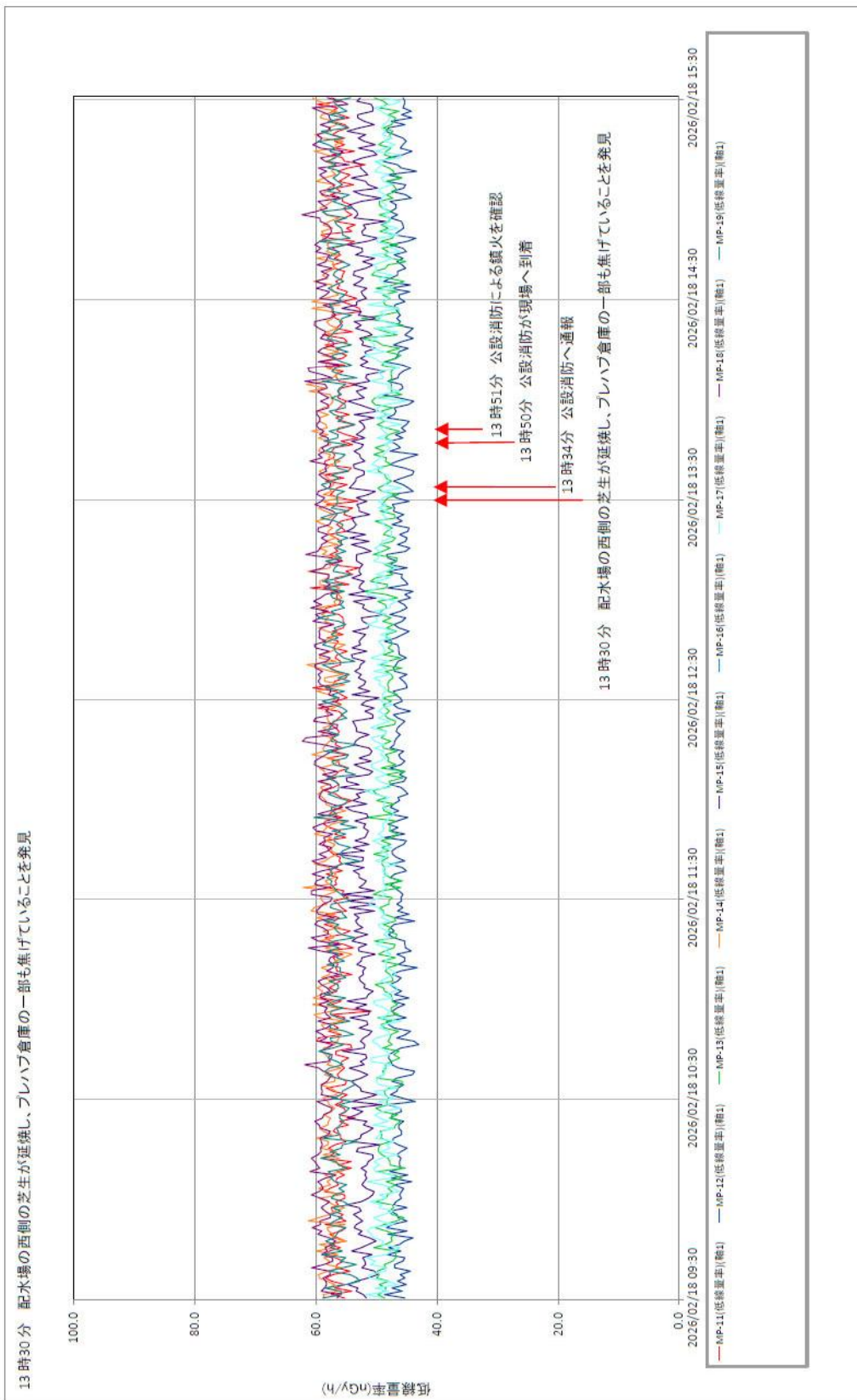
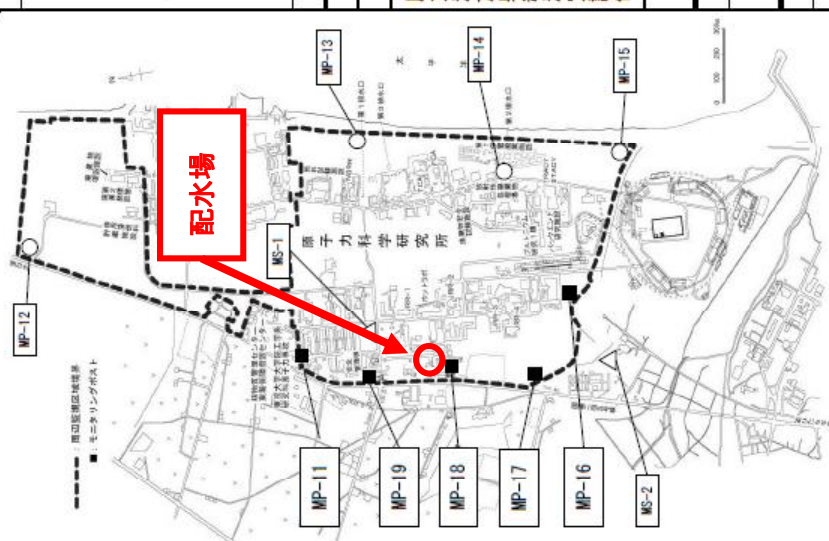
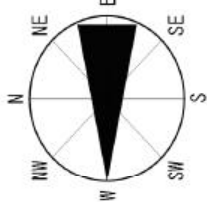
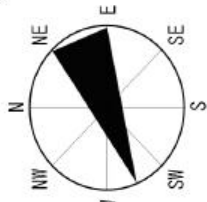
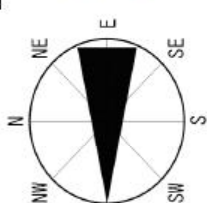


図 6 A モニタリングポストの線量率の時系列グラフ

環境放射線監視データ		測定日時：2026年02月18日 13時30分(10分平均値)		
		気象観測		
		10m高 風向・風速	20m高 風向・風速	
				
		40m高 風向・風速		
				
大気安定度		A - B	降雨	
		空間放射線線量率 (nGy/h)		
測定局	測定値	異常の有無	異常の有無	
MP-11	55.3	有・無	46.4	
MP-16	***	有・無	35.4~63.6	
MP-17	48.8	有・無	48.5	
MP-18	58.2	有・無	42.7~68.4	
MP-19	56.6	有・無	57.4	
MS-1	85.2	有・無	51.9~75.1	
			52.4	
			46.6~75.1	
			76.4	
			70.0~95.8	
		空気中放射能濃度 (10 ⁻⁶ Bq/cm ³)		
MS-1	19.1	有・無	MS-2	23.8
				1.3~69.1
特記事項		平常時の欄の上段の数値は2026年01月の10分平均値、下段の数値は1分値の最小から最大を使用。		
備考		直近MP (○) : MP-18 , 風下MP (下線) : MP- 参照する風向観測高さ： m 【1 nGy/h = 0.1×10 ⁻² μSv/h】		

測定地点を示す図は、令和5年2月22日現在版

図 6 B 環境放射線監視データ (モニタリングポストの位置と風向きを示す)

(令和7年9月2日改定)